



# 日進北小だより

令和3年10月1日 第6号

電話 048 (663) 1842 FAX 048 (663) 9884

<http://nisshinkita-e.saitama-city.ed.jp/>

学校教育目標:

心身ともに健康で、自ら学び、自ら考え、判断し、行動できる子どもを育成する  
～日本一 すてきなあいさつ 日北っ子～



## 「思いやりを育てる。」

校長 平塚 信也

ようやく緊急事態宣言が終了しました。子どもたちが戻ってきました。オンラインで学習していた児童も、学校でいろいろ我慢して学習した児童もよく頑張りました。今後も引き続き感染症予防には気をつけていかなければなりません。通常登校の対面授業が始まります。張り切っていきたいと思えます。

昨日の講話朝会はオンラインで行ってみました。オンラインはうまく通信ができています。かわからず不安です。ご家庭でも視聴できたでしょうか。1ヶ月に及ぶオンライン授業でしたから、学校に来にくくなっている子どももいるかもしれないと思い、ぜひ声をかけたいと考え実施してみました。

朝会では、「思いやりのあふれる学校を作ろう」ということで話しました。私が以前勉強した発達心理学の講義で「思いやりは性格ではない。教育で育てられる。」「思いやりが育つのに適した時期がある。それは10歳である」というものがありました。大変心に残っていたのでいつか子どもたちに紹介したいと常々考えていました。もう一つ紹介したいものに「思いやり算」がありました。これは震災直後のテレビで流された宮澤章二の「行為の意味」というCMが基になっています。「心は誰にも見えないけれど『心づかい』は見える」「思いは見えないけれど『思いやり』はだれにでも見える」という内容の詩です。この印象的な詩は当時の社会情勢にとっても合い、この詩を基にした、いくつかの感動的で考えさせられるCMが流れていました。それらのCMの中でよく覚えているものが「思いやり算」です。「たす(+) け合う。」「ひき(-) 受ける。」「声をかけ(x) る。」「わかち(÷) 合う。」というものです。子どもたちに「思いやり」を育ててほしいと考え、この2つを基にパワーポイントを作成し流しました。子どもたちに伝わってくれていたら大変うれしいです。

「子どもたちの学びをとめない」を合言葉に、オンライン授業等教職員は頑張っています。しかし、学校での学びには知識や学力だけではなく、ふれあいや経験が大切なことも改めて実感しました。昨年度の新入学生(現2年生)は、入学のときからコロナ禍でした。1年生の時に6年生のお兄さん、お姉さんのお世話になる経験もできませんでした。2年生で新しい1年生を案内するなどの経験もできませんでした。どの学年も通常であれば経験し、何かを感じ、学び取っていたことができていると思います。コロナ感染症はひとしく全ての世代に降りかかった災難ではありますが、特に若い世代への影響は大きいと思います。「思いやり」も「心づかい」も、ご家庭と協力して意図的に育てていきたいと思えます。それでこそ対面で生活し、学習する学校という空間の存在価値も増してくると思えます。まだまだ続く新型コロナ対策下でも出来る限りの教育を行っていきます。一層のご支援ご協力をお願いいたします。